

8. 伝統・文化と新たな息吹が融合する魅力を世界に向けて発信するまち

1. アート・カルチャーによるまちづくりの推進

1. 豊島区の文化政策

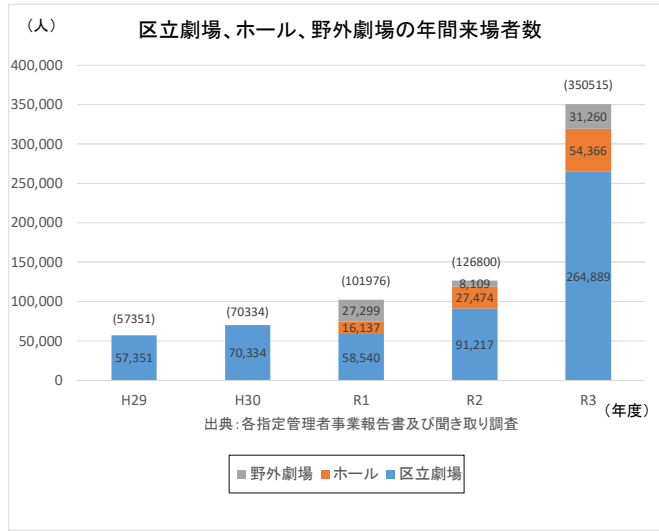
事業名	主催者	事業の概要および開催状況
次世代育成事業	公益財団法人 としま未来文化財団	次世代を担う幅広い年代を対象に行っているワークショップ。音楽や演劇などさまざまな芸術に出会い、体験し、様々な自己表現の方法を学び創造活動を行うことを通じて、豊かな感性を培い、次代の文化を担う人材の育成を行っている。 ◎活動内容 (～H30)年間を通したワークショップ(月2～3回)、地域イベントや演奏会等への出演 (R1) 夏休み中の連続した6日間、様々なジャンルのアーティストによるワークショップ。当日参加可能なコンサート、美術体験あり (R2) 夏休み子どもアートサーカスに加え、0歳から参加できるワークショップやミニシアター、子どもの芸術体験環境向上に寄与する団体との協働事業(架け橋プロジェクト)や子どもスキップ連携事業など区内施設へのアーティスト派遣、日本舞踊の基礎を学ぶ講座など既存事業の枠組みを整理し、次世代育成事業の充実を図った。また、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、内容を見直し、安全対策を万全に行いオンライン、作品公募・展示又は対面により実施した。 (R3) R2年度の取り組みも引き続き行い、7/17～8/15にかけてオンライン、対面を混ぜ合わせた夏休みアートサーカスを実施。0歳から参加できるコンサート・ワークショップを拡充しより多くの方に参加いただけた。 ◎参加人数 (H29) 692人(延べ人数) (H30) 823人(延べ人数) (R1) 598人(延べ人数) (R2) 473人(延べ人数) (R3) 1,130人(延べ人数)
としま能の会	公益財団法人 としま未来文化財団	豊島区に縁のある能楽師、狂言師によって演じられる日本の代表的な古典芸能を区民の方に親しんでもらい、理解を深め、次の世代に伝えていくことを目的に開催。 (R2) 新型コロナウイルス感染症の影響を受け5月9日東京芸術劇場から12月19日芸術文化劇場に変更して開催。芸術文化劇場の客席を50%に制限し事前講座もオンラインに変更。 (R3) 新型コロナウイルス感染症感染防止対策として、東京芸術劇場の客席を50%に制限し実施。例年行っていた観世喜正による演目解説、区長挨拶を事前収録するなど、ガイドラインを遵守しての開催となった。能楽の魅力を国内外へ発信すべく、国際発信動画を製作、配信を行った。 ◎参加人数(入場者数) (H28) 755人(H29) 754人 (H30) 620人 (R1) 612人 (R2) 536人(R3) 336人
民俗芸能inとしま	公益財団法人 としま未来文化財団	後継者難などから存続の危機にあった区の民俗芸能の継承と紹介を目的に、平成元年から毎年開催。豊島区に伝承される「富士元囃子」「長崎獅子舞」「雑司ヶ谷鬼子母神お会式万道練供養」(いずれも区指定無形民俗文化財)のほか近隣地域や姉妹都市、友好・交流都市に伝わる民俗芸能も上演。 (R2) 区の民俗芸能の継承と紹介に加え、祭りや伝統的な踊りを楽しむ参加型からコロナ禍に合わせて鑑賞型のイベントに変更し、西口公園グローバルリングで開催。 (R3) 西口公園グローバルリングで当初計画していた「民俗芸能inとしま」公演は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で8月に中止を決定。代替企画として、豊島区指定無形民俗文化財を題材としたドキュメンタリー映像作品を制作し試写上映会を実施した。 ◎参加人数(入場者数) (H28) 221人 (H29) 263人 (H30) 301人 (R1) 672人 (R2) 2,223人 (R3) 110人
豊島区管弦楽団・吹奏楽団演奏会	公益財団法人 としま未来文化財団	区設置による豊島区管弦楽団・吹奏楽団の演奏会として、幅広い年齢層の区民を対象に、気軽に演奏を楽しんでいただく公演を目指し毎年開催。文化芸術に対する理解と創造意欲を促進し、文化を通じた相互の交流を図る。 (R3) 新型コロナウイルス感染症の影響を受けR2は「豊島区管弦楽団・吹奏楽団の演奏会」は共催で実施したがR3は財団・区の主催で実施。R2に引き続き芸術文化劇場の客席を50%に制限し実施した。 ◎参加人数(入場者数) (H29) 管弦:1,275人 吹奏:1,612人 (H30) 管弦:1,089人 吹奏:1,000人 (R1) 管弦:中止 吹奏:897人 (R2) 管弦:373人 吹奏:279人 (R3) 管弦:413人 吹奏:279人

出典:文化デザイン課作成資料

8-1 アート・カルチャーによるまちづくりの推進

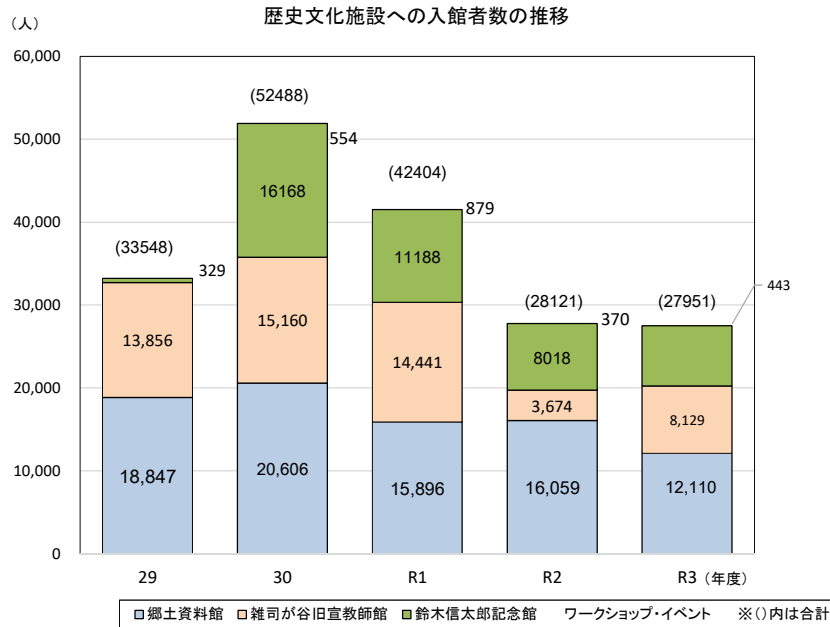
2. 区立劇場、ホール、野外劇場の年間来場者数の推移

区立劇場は豊島区立舞台芸術交流センター＋豊島区立芸術文化劇場、ホールはとしま区民センター多目的ホール＋小ホール、野外劇場は池袋西口公園野外劇場の総利用者数。



基本計画(豊島区基本計画2022-2025) 施策の進捗状況を測る参考指標	現状値 <2020年度>	目標値 <2025年度>	参考値 <2030年度>
区立劇場、ホール、野外劇場の年間来場者数【万人】	12.7 ※R4.9 数値修正	50.4	50.4

3. 歴史文化施設への入館者数



※ 郷土資料館は平成29年10月1日リニューアルオープン
 ※ 旧鈴木信太郎邸は鈴木信太郎記念館として平成30年3月28日開館
 ※ 3館は令和2年3月2日～6月1日、コロナウイルス感染防止のため休館
 ※ 令和2年11月9日～令和3年3月31日、雑司が谷旧宣教師館は文化財保存修繕のため臨時休館

基本計画(豊島区基本計画2022-2025) 施策の進捗状況を測る参考指標	現状値 <2020年度>	目標値 <2025年度>	参考値 <2030年度>
郷土資料館・雑司が谷旧宣教師館・鈴木信太郎記念館の入館者数及びワークショップ・イベント参加者数【人】	28,121	41,208	55,000

4. 姉妹・友好・交流・防災協定都市一覧

(令和4年度)

区 分	基 準	提携書等	都 市	
○姉妹都市 友好都市のうち、長年にわたり、住民相互において文化・経済など様々な交流が継続している都市と、特別な親善関係をもつことで、更に理解と友情を深め、両都市の繁栄と幸福に寄与する交流を行う。	友好都市として概ね3年以上の交流があること	宣言文	・埼玉県秩父市 (昭和58年10月)	
○友好都市 交流都市のうち、交流事業が拡大、活発化し、住民相互の交流が継続している都市と友好関係をもつことで相互理解と友情を深める交流を行う。(国内外数都市とする)	交流都市として概ね3年以上の交流があること	協定書	・大韓民国ソウル特別市 東大門区(平成14年5月) (平成24年5月協定10周年宣言 合意書) ・山形県遊佐町(平成16年8月)	
交流都市	○文化交流都市・相互交流宣言都市 歴史、文化、芸術、政策、観光等の紹介を中心に、相互の情報交換、多面的な交流を行っている都市。協定を結び、相互協力の確認をしている場合が多い	交流の申し出等があったもののうち、交流の意義が高いと認められる都市	有るところと無いところがある。 ・三重県名張市 (平成16年3月交流都市協定締結) ・埼玉県秩父市 (平成21年11月14日友好都市協定締結) ・宮城県 (平成27年7月豊島区と宮城県の相互交流に関する10周年宣言) ・栃木県那珂川町 (平成24年3月観光交流都市協定締結) ・埼玉県飯能市 (平成24年5月西武線沿線サミット協定締結) ・秋田県能代市 (平成25年1月教育連携協定締結) ・埼玉県川越市 (平成25年10月東武東上線沿線サミット協定締結) ・埼玉県東松山市 (平成25年10月東武東上線沿線サミット協定締結) ・埼玉県寄居町 (平成25年10月東武東上線沿線サミット協定締結) ・神奈川県湯河原町 (平成27年2月文化協定締結) ・沖縄県伊江村 (令和3年7月ゆたしやる島交流宣言) ・愛媛県内子町 (令和3年12月文化交流都市協定) ・長野県長野市 (令和4年3月集客プロモーションパートナー都市協定)	
	○観光物産交流都市 交流相手都市の自然、観光資源、物産等の紹介を中心とした交流を行う。	同 上	同 上	・北海道夕張市 ・青森県十和田市 ・岩手県一関市 ・宮城県石巻市 ・宮城県大崎市 ・秋田県能代市 ・山形県村山市 ・山形県遊佐町 ・福島県いわき市 ・福島県南相馬市 ・福島県伊達市 ・福島県猪苗代町 ・茨城県常陸大宮市 ・栃木県宇都宮市 ・栃木県那須烏山市 ・群馬県みなかみ町 ・東京都大島町 ・東京都八丈町 ・埼玉県所沢市 ・埼玉県越生町 ・新潟県魚沼市 ・新潟県湯沢町 ・新潟県津南町 ・富山県富山市 ・長野県小海町 ・長野県立科町 ・長野県箕輪町 ・静岡県浜松市 ・静岡県伊東市 ・滋賀県東近江市 ・岐阜県関市 ・広島県熊野町 ・愛媛県内子町 ・大分県杵築市
	○東アジア文化都市交流都市 豊島区とともに2019年東アジア文化都市として1年間にわたり交流事業や各都市の文化的魅力の発信に取り組み、交流を継続している中国・韓国の都市。	2019年東アジア文化都市として各国の代表に選定された都市。	合意書	・西安市(中国) ・仁川広域市(韓国)

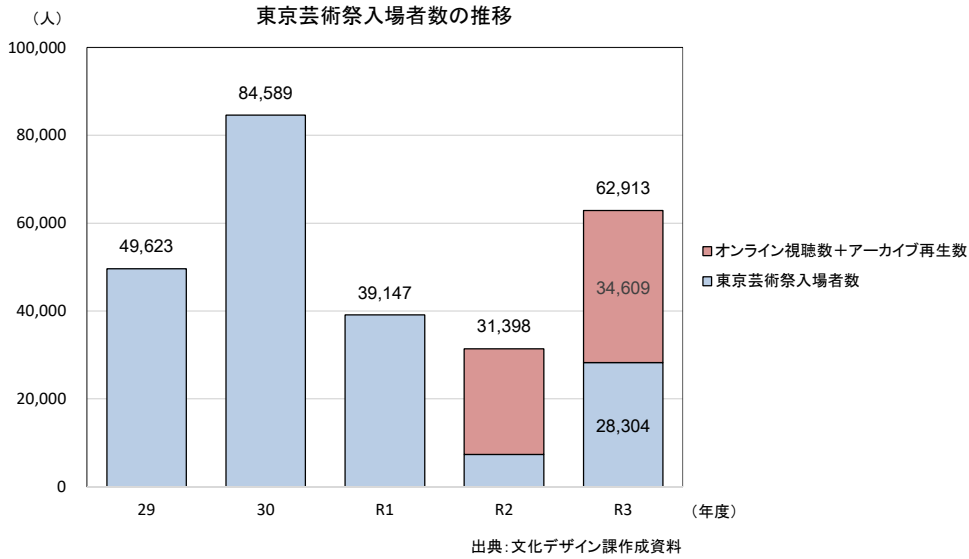
出典:文化観光課作成資料

○防災協定都市 いずれかの地域に、大規模な災害が発生した場合に、食糧の供給や資器材の提供、人的支援を行うことなど、友愛精神により自治体間で救援、協力し合う。	都市交流の実績のあるものうち、災害時における自治体間での救援、相互協力に合意した都市	協定書	・山形県遊佐町(平成7年5月) ・埼玉県秩父市(平成7年6月) ・福島県猪苗代町(平成7年7月) ・埼玉県三芳町(平成9年2月) ・岩手県一関市(平成13年6月) ・岐阜県関市(平成13年11月) ・群馬県神流町(平成15年7月) ・新潟県魚沼市(平成17年4月) ・長野県箕輪町(平成17年4月) ・茨城県常陸大宮市(平成17年5月) ・栃木県那須烏山市(平成18年11月) ・山形県村山市(平成22年8月) ・秋田県能代市(平成25年4月) ・愛媛県内子町(平成25年12月) ・神奈川県湯河原町(平成28年2月)
---	--	-----	---

出典:防災危機管理課作成資料

8-1 アート・カルチャーによるまちづくりの推進

5. 東京芸術祭の入場者数の推移

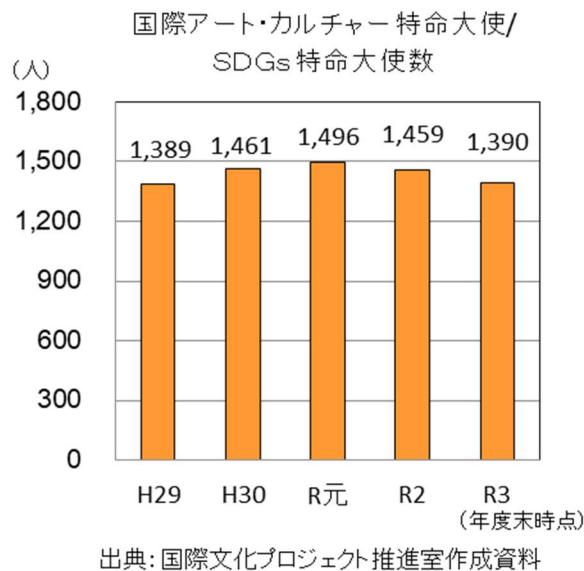


6. 国際アート・カルチャー特命大使/SDGs 特命大使数

国際アート・カルチャー特命大使は、国際アート・カルチャー都市構想に賛同し、その牽引役として平成28年1月に活動を開始した。関連事業への参加やまちの魅力発信、特命大使による自主企画事業の運営等を通じ、国際アート・カルチャー都市実現に向けた活動の裾野を拡大してきた。

令和2年11月より、国際アート・カルチャー都市/SDGs 未来都市双方の実現に向けた取組みを担うため、SDGs 特命大使を兼任する新たな制度を創設し、改めて賛同者を募った。

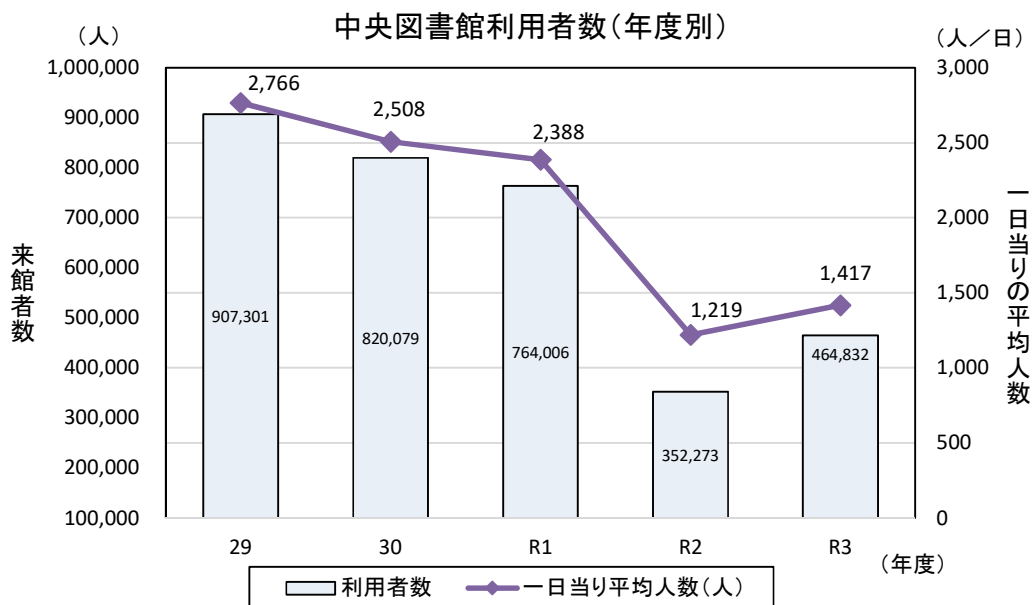
令和3年度からは、としま未来文化財団に事務局を移し、自主企画事業の発信等のより積極的な参画を促している。それらを通じ、国際アート・カルチャー都市/SDGs 未来都市双方の実現に向けた取組みを行う。



2. 生涯学習・生涯スポーツの推進

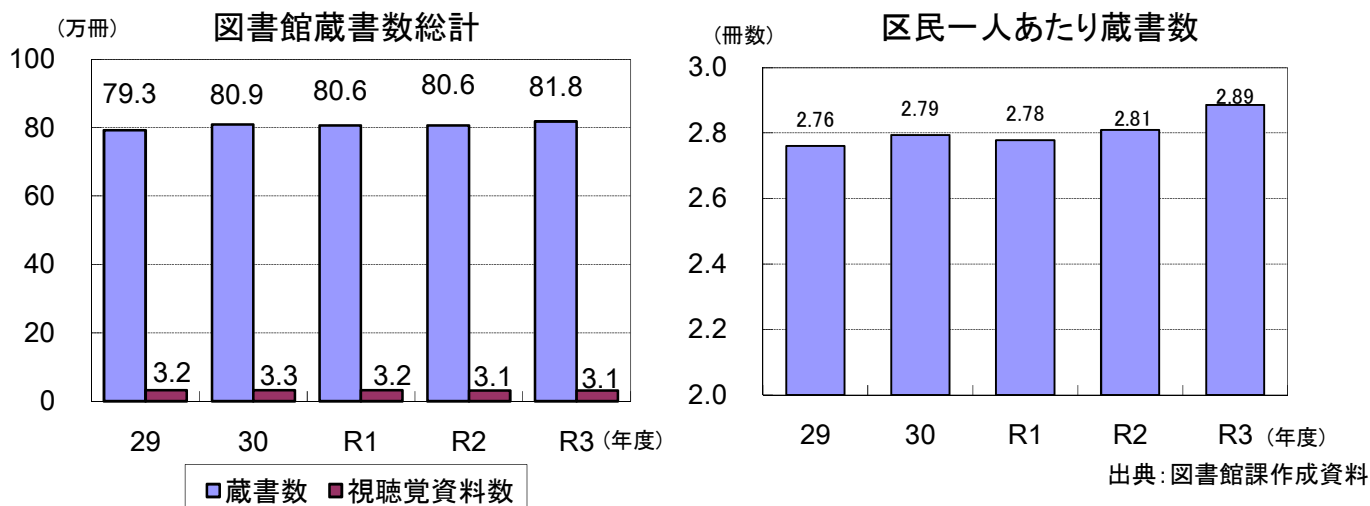
1. 中央図書館利用者数の推移

令和3年度は令和2年度に比べて利用者数が増加しているものの、新型コロナウイルスの影響で、依然低い水準で推移している。



2. 図書館蔵書数・区民一人あたり蔵書数の推移

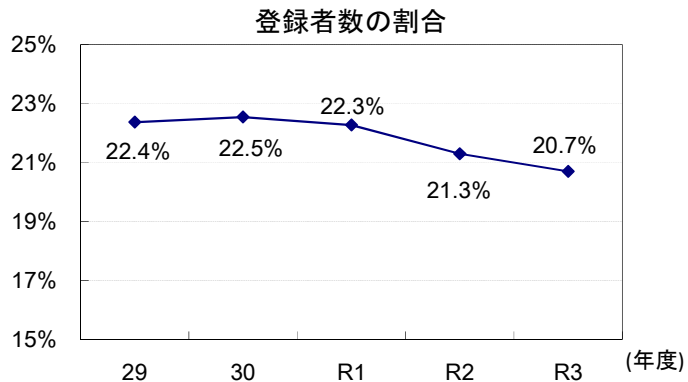
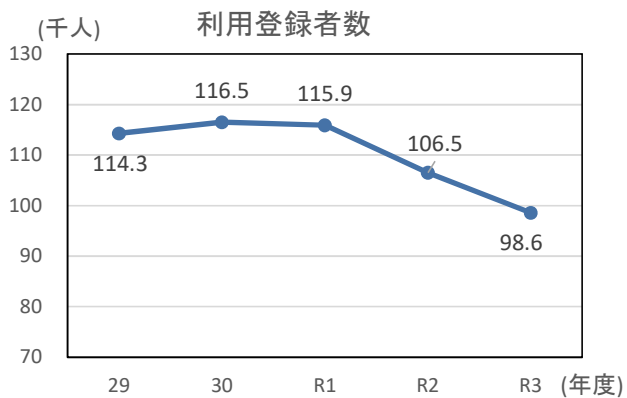
書館蔵書総数は平成29年度以降、大幅な数値の変化は見られない。また、令和3年度の区民一人あたりの蔵書数は、豊島区人口が減少したこともあり、令和2年度に比べて微増となっている。



※各年1月1日現在の住民基本台帳人口による。

3. 利用登録者数と割合の推移

令和2年度以降、新型コロナウイルスの影響により、図書館利用者カードの新規登録者数や更新件数が減少している。

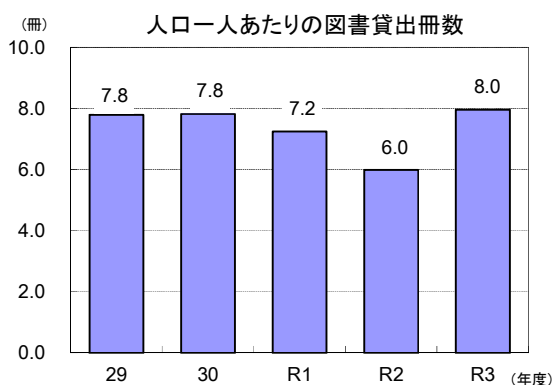


出典：図書館課作成資料

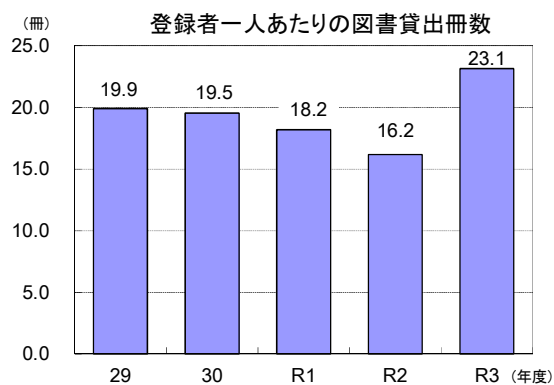
$$\frac{\text{豊島区在住の登録者数}}{\text{住民基本台帳人口(1月1日現在)}} \times 100$$

4. 図書貸出冊数の推移

令和3年度は人口一人あたり、登録者一人あたりの図書貸出冊数が増加している。それにとともに、全体の貸出冊数も増加している。

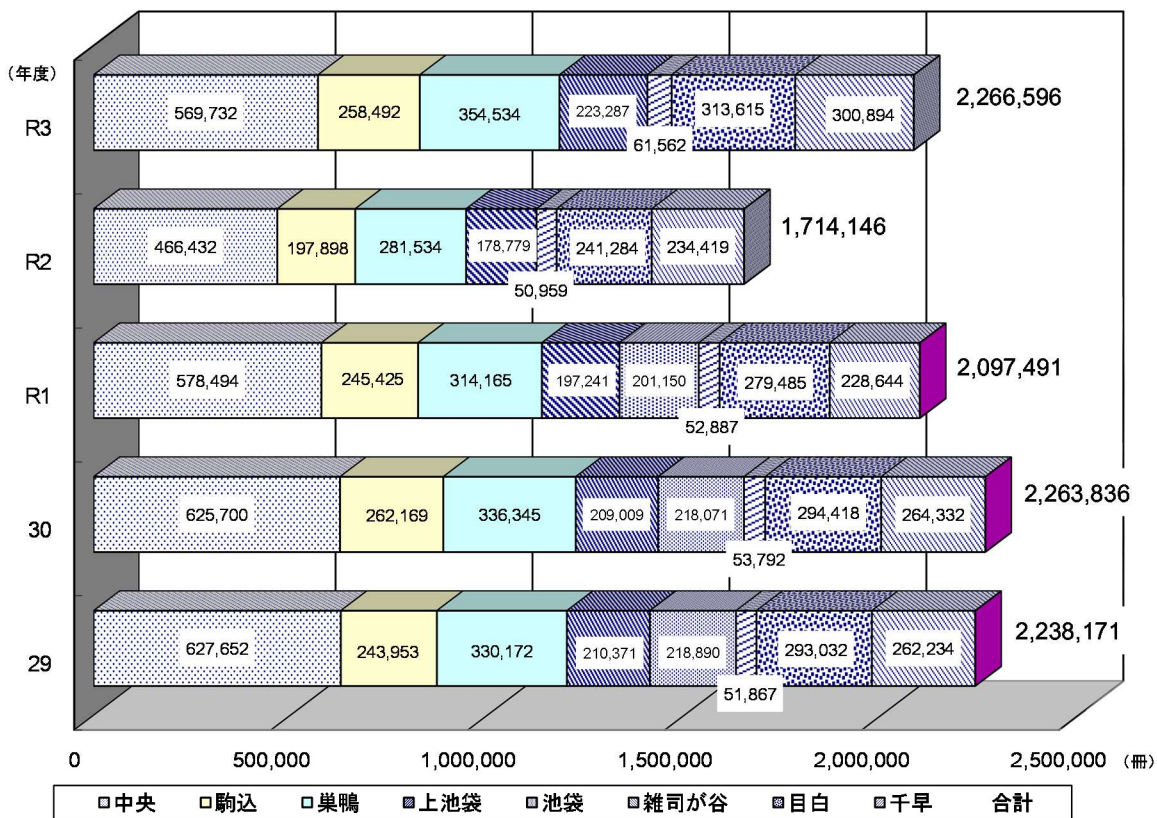


出典：図書館課作成資料



出典：図書館課作成資料

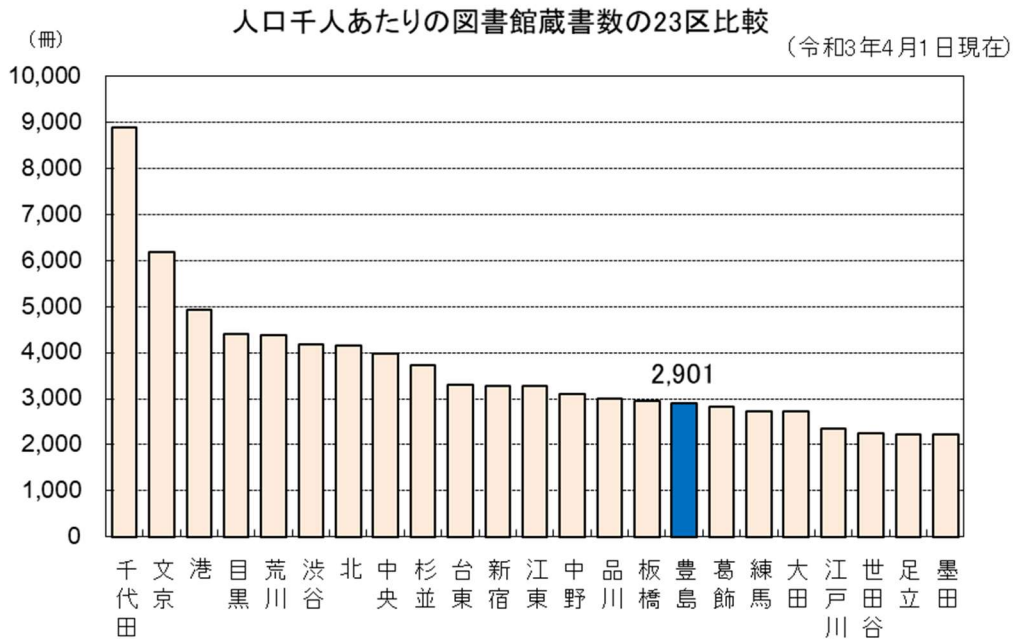
図書館貸出冊数の推移



出典：図書館課作成資料

脚注
 ・平成29年4月 池袋・目白・千早図書館の開館日を拡大。
 池袋・目白図書館 平日の開館時間を1時間延長。
 ・平成31年12月29日～令和2年1月13日 図書館システム入替のため、全館臨時休館
 ・令和2年3月2日～6月27日 新型コロナウイルス感染症予防対策に伴う図書一部サービス休止
 ・令和2年10月1日～令和3年3月31日 池袋図書館改修工事

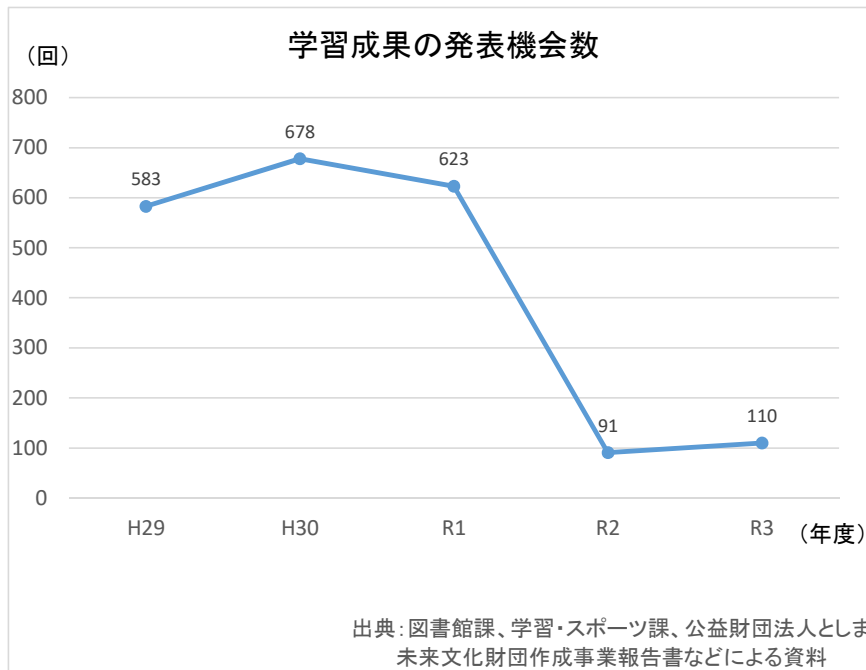
5. 人口千人あたりの図書館蔵書数の23区比較



出典:【人口】R4年1月1日現在 住民基本台帳より
【蔵書数】特別区の統計 令和3年版(特別区協議会)より

6. 学習成果の発表機会数

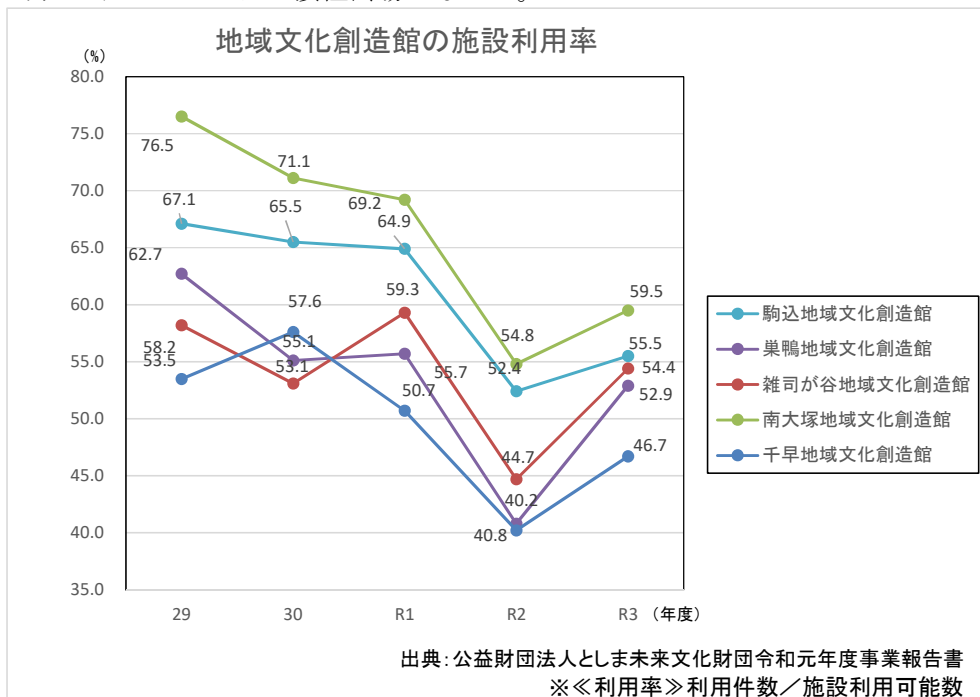
学習の成果として、生涯学習関連施設での文化祭や発表会への参加や展示、講座での講師や学習支援者として活動は、学びの成果を地域に還元できることや学習活動をしている人と人、人と活動、活動と活動がつながる機会となっている。新型コロナウイルス感染症による学習活動の中止で、発表の機会が減少している。



基本計画(豊島区基本計画2022-2025) 施策の進捗状況を測る参考指標	現状値 <2020年度>	目標値 <2025年度>	参考値 <2030年度>
学習成果の発表機会数【回】	91	620	670

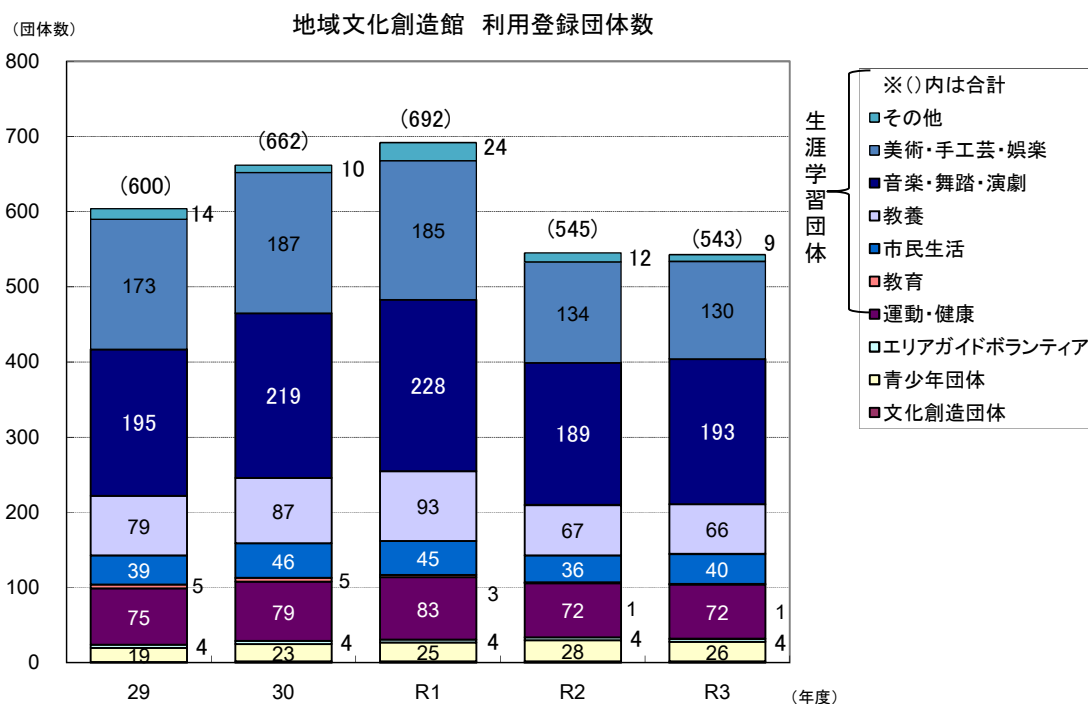
7. 地域文化創造館の施設利用率

平成 29 年度の巢鴨地域文化創造館工事休館期間中に利用団体が他施設へ定着してしまったため、平成 30 年度の利用率が減少した。令和元年度は令和 2 年 3 月 2 日から 3 月 31 日まで新型コロナウイルス感染症予防のため施設貸出を中止している。令和 2 年度は、令和 2 年 4 月 1 日から 6 月 7 日まで貸出中止、1 月 8 日～3 月 31 日までは夜間の貸出中止となった。令和 3 年度は令和 3 年 4 月 1 日～24 日までは夜間貸出 21 時まで、4 月 25 日から 5 月 31 日まで貸出中止、6 月 1 日から 9 月 30 日までは夜間貸出を 20 時までとした。南大塚地域文化創造館を除く 4 館は、8 月 1 日～11 月 30 日までワクチン接種会場となった。



8. 地域文化創造館利用団体登録数（一般団体を除く）

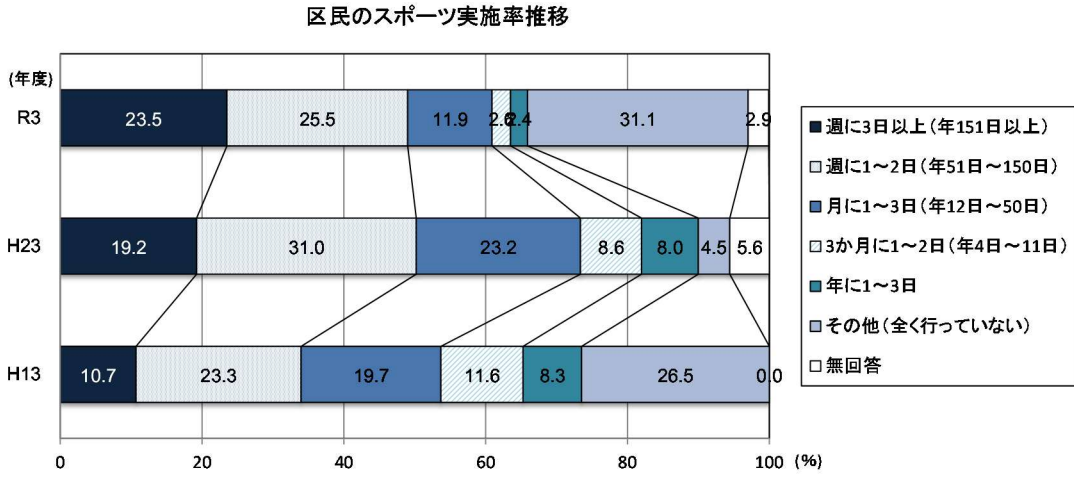
平成 25・27・30 年度末の更新で一般団体を除く利用団体の再登録を行っている。そのため 2 年ごとに団体数が減少と増加を繰り返している。27 年度以降は、3 年毎の更新となる。また、29 年度からエリアガイドボランティアの登録も開始した。



出典：学習・スポーツ課、地域文化創造館利用団体登録リスト

9. 区民のスポーツ実施率

平成23年度の調査では、週に1~2日以上運動する人の割合が約5割となっており、平成13年度と比べると、運動する頻度が高くなっている。令和3年度の調査では、週に1~2日以上運動する人の割合が約5割となっており、平成23年度の調査と同水準となっている。

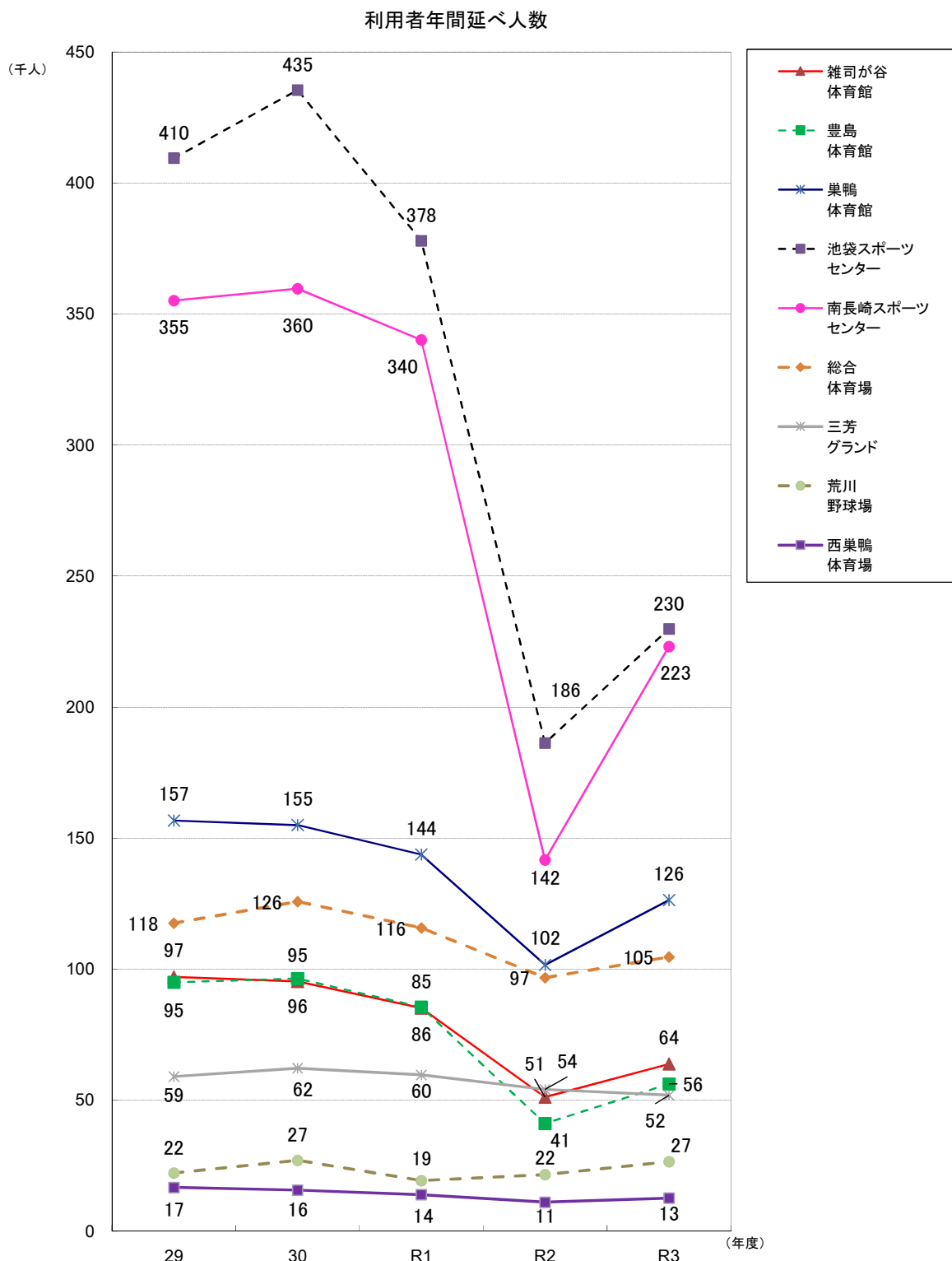


出典: 令和3年度 協働のまちづくりに関する区民意識調査
 平成23年度 スポーツに関する意識調査
 平成13年度 豊島区民の運動やスポーツに対する意識と活動の状況に関する調査
 ※スポーツ実施率とは 豊島区スポーツ推進計画(平成27年10月策定)で掲げている数値目標。
 豊島区民が日常生活において運動やスポーツをおこなっている頻度(週1回以上)を平成36年度(令和6年度)までに70%へ高めることを目標としている。

基本計画(豊島区基本計画2022-2025) 施策の進捗状況を測る参考指標	現状値 <2021年度>	目標値 <2025年度>	参考値 <2030年度>
「週に1回以上スポーツを実施する」18歳以上の区民の割合【%】	49.0	70.0	70.0

10. スポーツ施設の利用状況

スポーツ施設の利用者数については、平成28年度以降は増加傾向にあるが、令和元年度以降は、新型コロナウイルス感染予防対策に伴う臨時休館及び利用制限により減少している。なお、令和3年度の利用者数は前年度と比較すると回復基調にある。



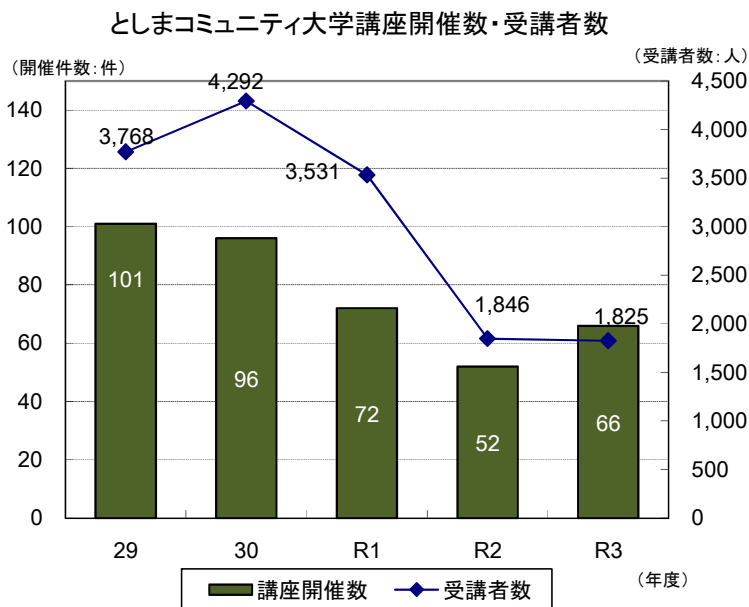
出典: 学習・スポーツ課作成資料(指定管理者の報告に基づく「体育施設利用状況」より)

基本計画(豊島区基本計画2022-2025) 施策の進捗状況を測る参考指標	現状値 <2020年度>	目標値 <2025年度>	参考値 <2030年度>
区立体育施設利用者数【人】	705,589	1,450,000	1,580,000

11. としまコミュニティ大学

区内大学との包括協定により、各大学の特色を活かした講座が提供され「誰でも、いつからでも学べる」環境が作られている。また、登録して学ぶしくみ（マナビト1年生・2年生・研究生）により、幅広い年代がライフスタイルに合わせて学ぶ「継続的な学びの場」が醸成されている。

学習ネットワーク構築の支援により、学びを通じた仲間づくり・地域づくりが進んでいる。



出典: 学習・スポーツ課作成資料
「としまコミュニティ大学講座プログラム開催実績表」

【としまコミュニティ大学とは】

平成19年「豊島区と区内大学(学習院・女子栄養・大正・帝京平成・東京音楽・立教)との連携・協働に関する包括協定」により開講し、平成28年度から川村学園女子大学も加わった。

としまの街全体をキャンパスに見立て、各大学提供の講座をカリキュラム編成し、年間プログラムで実施している。(学校教育法等で定める正規の大学ではない)

学びを通じて人と人がつながり、活動へとつながり、いきいきとした地域づくりにつながる「学びの循環(わ)」の中で、様々なタイプの地域(街・社会)文化の担い手づくりを目指す総合的な学びの場である。